

基幹探究Ⅰ 国語 「羅生門」を読み解く① 事前ワークシート

「羅生門」

H 番 氏名

◎本文を読み、このプリント(両面)に取り組んだうえで初回の授業に臨んで下さい

目標

叙述に基づいて作品の内容を的確に捉える。

○作者 芥川龍之介について

一八九二(明二五) 東京に生まれる。辰年辰月辰刻生まれなので龍之介と命名される。  
生後八か月で母発狂。

一九一〇(明四三) 第一高等学校入学。同級に久米正雄、菊池寛、山本有三らがいた。

一九一四(大三) 久米、山本らと『新思潮』創刊。

一九一五(大四) 「羅生門」発表。夏目漱石に師事するようになる。

一九一六(大五) 「鼻」発表。漱石に賞賛される。

芸術至上主義。新技巧派・新理知派。

一九二〇(大九) 長男比呂志(俳優として活躍)誕生。次男也寸志は音楽家。

一九二二(大一一) 健康の衰え目立つ。

一九二七(昭二) 自宅にて服毒自殺。

「主な作品」(知っているものに○、読んだ事があるものに◎をつけよう)

「羅生門」 「鼻」 「芋粥」 「手巾」 「戯作三昧」 「地獄変」 「蜘蛛の糸」

「奉行人の死」 「蜜柑」 「藪の中」 「トロッコ」 「点鬼簿」 「河童」 「歯車」

「或阿呆の一生」など

○下人のいる場所を手がかりに、四つの段落に分けてみよう。

段落	P・行	ト人のいる場所
第一段落	P 行まで	
第二段落	P 行まで	
第三段落	P 行まで	
第四段落	最後まで	↓

○5W1Hを中心に、場面を整理する

第一場面	第二場面	第三場面	第四場面
<p>初め、そのはしごのいちばん下の段へ踏みかけた。</p>	<p>それから、何分かのうちである。とうに忘れていたのである。</p>	<p>そこで、下人は、両足に力を入れて、急なはしごを夜の底へ駆け下りた。</p>	<p>しばらく、死んだように倒れていた老婆が、</p> <p>終わり</p>
<p>雨の降る夕暮れ、荒廃した「」の下で、主家から暇を出された一人の「」が雨やみを待っている。飢え死にをしたくなければ「」になるしかないが、下人にはそれを積極的に肯定する「」がない。決断を先延ばしにした下人は、死体の捨ててあるという楼上で、人目を避けて一晩休もうと考える。</p>	<p>楼上に人の気配を察知した下人は、恐る恐る様子をうかがう。腐乱した死体が転がる中には、一人の痩せた「」がいて、松の木切れの明かりをたよりに、女の死骸から「」を抜き取っていた。それを見るうちに、下人の心からは「」が消え、同時に「」が燃え上がった。</p>	<p>楼上へ飛び上がった下人は、老婆を捕らえ、太刀を抜いて問いただすが、「」という答えの「」さに失望する。老婆はさらに、この死人たちも生前生きるために悪事を働いていたとし、生きるためにしかたがなくなすることは悪とは言えず、相手もそれを許すだろうと弁明する。下人はそれを聞いて「」になる勇気を得、老婆の「」を剥ぎ取って門の下に駆け下りていく。</p>	<p>下人の去った後、「」ははしごの口から門の下をのぞくが、そこには「」たる夜があるばかりだった。下人の行方は、「」。</p>

**※「」からは授業をやります**

〈明示されている情報〉と〈暗示されている情報〉を確認し、印をつけよう

●時代背景「

●場所「

●下人の境遇「

●下人の心理状態「